

土曜 ライフ・楽しむ

長期入院「大丈夫」が一番の良薬

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



ができあがっていて不自由もなく、手間もかかりません。

最初に感じた不安は、医師や看護師の、「大丈夫、順調です」という言葉で一気に薄まりました。「大丈夫」という言葉そのものが最も効き目のあるクスリなんだと思ったものです。彼らに自分を託すことができ、幸いでした。

コロナ禍で医療現場の皆さんが大変な苦労をされていると聞いています。そんな環境でもこうして続けられる献身的な姿を目で見て、肌で感じて、とてもありがたく思いました。もう入院、手術は願いませんが、素晴らしい経験をくださったと感謝しています。

私にできることは、リハビリに励み、これ以上彼らの手をわずらわせないようにすること。また、日ごろの養生に励むことだと肝に銘じ、完治を目指すことにします。

〇〇〇〇〇〇
ぐ後、自分で記録します。2日後リハビリが始まりました。理学療法士も男女がいて、いずれも丁寧に、そして時には厳しさを込め、励ましながら回復を後押ししてくれます。入院中に受ける各種の検査の技師、薬剤師、栄養士、どなたも丁寧です。ただ一点だけ、楽しみがこれしかない食事はいまいちでした。

〇〇〇〇〇〇
折しもコロナ禍で、完全に面会謝絶、家族がくることはありません。その代わりということでしょうが、寝間着やタオルなどレンタルの仕組み

〇〇〇〇〇〇
目が覚めたとき、自分がどこにいるのか一瞬わかりませんでした。白っぽい壁、高い天井を見渡し、しばらくして、「そうだ、足の手術で病院にいらんだ」と気づきました。麻酔が切れ、だんだん頭がはつきりするにつれ落ち着いてきて、ベッドサイドの医師や看護師らの姿が見えます。「無事終わりましたよ。順調です」とのうれしい言葉にホッとしました。上体を起こしてもらい自分の想像していた以上に大きな手術跡を見て、びっくりしてびっくり返りそうになりました。そのとたん、もうすでにベッドにひっくり返っていることを思い出しました。

〇〇〇〇〇〇
情けないことに手術を前にして不安でいっぱいでした。過去に入院というのは、2泊3日を2回しか経験したことがなく、2週間にも及ぶ長い入院は初めてのことです。また全身麻酔というのも全く未知の世界です。

大事にしてもらいました。こんなに大事にされたことは記憶にないほどです。特に優しいのが白衣の天使の看護師、今は女性だけではなく男性の天使もいて、いずれも優しい。彼らが昼夜を問わず代わるがわる訪れ、患部の処置、検温、血圧や血流の測定、排尿排便の回数を聞きま

す。体重測定は6時起床のす